ICT 海外ボランティア会会報
第 110 号

2023 年 9 月 21 日（木）

URL: https://ictov.jimdo.com
EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆特別寄稿
NTT 西日本　国際室の活動
当会顧問
NTT 西日本 技術革新部 技術戦略部門
国際室長　竹中 寿啓

◆特別寄稿
岩槻日記(25)　当会特別顧問　石井　孝

◆海外グラフィティ
チェーホフの「桜の園」を観て
日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智

◆海外便り
やどかり族の中国俳柳紀行序章(5)
元 JICA ｼﾆｱ海外ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ　北垣　勝之

◆国際交流基金の動き
日本語パートナーズ派遣事業の募集　事務局

◆メッセージリレー(3)

◆第 20 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様　事務局

特別寄稿

NTT 西日本　国際室の活動

当会顧問
NTT 西日本 技術革新部 技術戦略部門
国際室長　竹中 寿啓

ICT 海外ボランティア会の皆様、NTT 西日本　国際室の竹中寿啓です。この度、会報へ寄稿する機会を頂き、誠にありがとうございます。NTT 西日本のグローバル活動をご紹介させていただきます。

はじめに

現代は VUCA の時代といわれ、地球規模においては感染症や気候変動といった予測困難かつ未経験の課題を、国内においては人口減少や少子高齢化、労働力不足などの諸課題を抱えています。NTT 西日本グループは、このような社会を取り巻く環境変化がもたらす様々な課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献してまいりたいと考えております。先達から受け継ぎ磨き上げてきた伝統的な技術や知見をベースに、国外の革新的な技術を取り入れながら、地域の課題解決や活性化を実現してまいります。また、高度なスキルを有する人材をさらに育成するとともに、国内外問わず協業の輪を広げ、積極的に新たな事業の創出や NTT 西日本グループ各社の新領域ビジネスにおける海外展開に取り組んでいます。

海外キャリアとの活動

NTT 西日本では、2018 年より韓国の通信会社 LG Uplus 社に対して、つくばフォーラムやマイスターズカップといったイベントの視察や FTTH 関連の研修の場を提供してまいりました。近年は、通信事業だけではなく、両社が社会課題解決ソリューションへの取り組みを推進していることから、スマートファクトリー等のテーマを定め、サービス企画を担う部署を交えて、オンラインでの意見交換やディスカッションを実施し、リレーションを深めています。今後、互いの取組みや課題感を共有し技術交流を続けることで、新たな知見や技術を活用したサービス強化、海外展開の検討につなげ、新たなビジネス連携が生まれることを期待しています。

新領域ビジネス

NTT 西日本では、グループ会社による海外事業展開や海外技術を取り入れたサービス創出をめざしています。

NTT 西日本グループの NTT ソルマーレは、国内最大級の電子書籍サービスの一つである「コミックシーモア」の運営で培った経験を活かし、近年拡大している米国の漫画市場に向けて、幅広いジャンルのマンガ作品を全米最大級（40,000 点以上）の品揃えで配信するデジタルマンガストア「MangaPlaza(マンガプラザ)」のサービス提供を 2022 年 3 月 1 日より開始しました。今後、米国での販売拡大や海外事業ノウハウ蓄積に取り組むとともに、更なる海外市場を探索し、漫画事業の海外展開を拡大していく方針です。

また NTT PARAVITA では、国内で提供している睡眠データを活用したオンラインヘルスケアサービスの海外展開を検討しています。今年 7 月に英国政府関連機関 National Innovation Centre Ageing (NICA)主催のイベント「Healthy Ageing Accelerator - The Showcases」に英国スタートアップ企業 OXLABS 社と共同参加し、OXLABS 社の AI を活用した宅内見守り端末とともに、NTT PARAVITA が日本で展開している高精度な睡眠

分析システムによるヘルスケアサービスを紹介し、今後両社でコラボレーションを計画していることを発表しました。

NTT グループでは、世界から注目を集めているスタートアップ大国であるイスラエルの商都テルアビブにおいて NTT Innovation Laboratory Israel を 2021 年 5 月に設立しました。NTT 西日本としても、新たなビジネス領域の連携、ネットワーク等の設備高度化を目的に、イスラエルのスタートアップ企業との接点創出やグローバル連携パートナーの探索を開始しております。昨年 3 月に NTT 西日本本社敷地内に創設したオープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE（クイントブリッジ）」にて、今年 6 月にイスラエルのスタートアップ企業約 15 社によるピッチイベントを NTT Innovation Laboratory Israel と駐日イスラエル大使館経済部と共催し、デジタルヘルスケア・AI・ネットワーク・セキュリティ分野における最先端ソリューションを持つイスラエル企業に登壇いただきました。イベントでの交流を通して、海外の優良なスタートアップ企業とのビジネス連携を図り、サービス強化や事業拡大を図りたいと考えています。

人材育成

地域通信事業に限らない営業収益の拡大に向け、海外の先進事例・技術を活用した競争力のある事業創出や新領域ビジネスの海外展開が期待されており、社員のグローバル意識の醸成、育成が不可欠になっております。

NTT 西日本では、業務の専門性とグローバルスタンダードなスキルを合わせ持ち、国内外問わずビジネスを遂行できる人材の育成に向け、2011 年よりグローバル人材育成研修を行っております。本研修は、一定の英語力を持つ社員を対象にしておりますが、昨年度は、より多くの社員にグローバルを自分事と捉えてもらえるよう、英語力を問わない「グローバルマインドセット研修」を開始しました。世界規模で考え、足元から行動する“Think Globally, Act Locally”をテーマとした研修であり、グローバル対応が無い部署においても、海外ソースを活用し、新たな気づきを持って業務に取り組むことをめざしています。

最後に

新型コロナウイルス感染症の経験により、新しい価値観やライフ／ワークスタイルが生まれています。リモートが当たり前となり、地域のお客様に首都圏や世界からもアクセスできる時代になりました。こうした目まぐるしく変化する状況下であっても、変化をリスクではなくチャンスと捉え、地域で培った社会課題解決をグローバルに展開し、より一層貢献して参ります。

ご支援くださっている会員の皆様に心より感謝を申し上げるとともに、今後とも変わらぬご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

特別寄稿

岩槻日記(25)

当会特別顧問　石井　孝

「ウェッブサロン」

JICA のシニアボランティア経験者が中心となった集りが主催する「ICT 海外ボランティア会(ICTOV) ウェッブサロン」(7/22)に参加させて貰った。

JICA 青年海外協力隊事務局の南川真海子さんという方の経験談と JICA のこれからについての話を中心に、大変盛り上がった会合であった。

南川さんは、大変若い方であったが極めて聡明な人で、質疑応答も的を外さぬ素晴らしい受け答えをなされた。

JICA もこれまで、長い間、青年海外協力隊を軸にした開発途上国に対する「草の根」的な援助活動を軸に活動してきたが、そうして援助してきた諸国も、中進国に成長を遂げている。

これからは、こうした中進国が先進国への道を力強く歩めるべく支援する活動を、JICA は展開すべきではないかと思う。

JICA も支援する（支援した）途上国と共に、成長・発展しなくてはならない。

「国際教育団体(Toastmasters International）」

昨夜(9/16)の ICT 海外ボランティア会(ICTOV) ウェッブサロンは、Toastmasters International リーダー、エグゼクティブコーチの川内　和子氏による『国際教育団体「NPO 組織が１００年続く訳」』と題するお話であった。

全く恥ずかしい次第であるが、「Toastmasters International なるモノを全く知らなかった。

全世界に広がり、100 年の歴史を誇る英語教育の小集団活動のようである。

英語を必要とする人達が小集団で集い、楽しみながら、英語の作文や講演を競う、極めてユニークな自主的な教育活動のようである。

我々のような老人には些かしんどいのではないかと思ったが、ふと、余計な事を考えてしまった。

気心の合った連中が集い、英語をいい事にして、遠慮会釈もない政治批判や回顧談などに興じてみては如何であろうかと。

「藪にらみ」

マイナンバー問題が、どうも泥沼にはまってしまったような気がする。

これから先は、昔、いささかソフトウェアシステムに関わった老人の寝言（感想）である。

今、現在は違う、何を言っているかとお思いになる方は、忌憚のないご意見を頂戴出来れば、真に有り難い。

その１，ソフトウェアは完全な人工物で、神が創ったモノではない。

ハードウェアは、必ず物（物質）を対象とする。この物質なるモノは神様が創造した世界であるから神様とのコミュニケーションが出来ないと優れたハードウェアシステムは造れない。
物性理論の面では、優れて巧みなコミュニケーションが出来ればノーベル賞が頂ける。
また、処理・加工の面では、神業などと言われる熟練した職人技（コミュニケーション）が求められるケースも少なくない。
これに対してソフトウェアは、全て人知の世界である。
巧みなアルゴリズムも人間が見出して創造したモノである。全知全能の神は知っていたかもしれないが、その神様が教えてくれた訳ではない。
また、ある機能を創り出すやり方は、上手・下手を含めて造り手によって千差万別である。
ソフトウェアシステムは極めて複雑な論理体に成長してしまうケースがまま発生する。こうなると、それを創った人でないと、何故そうなっているのかは、中々分からない。
トラブル発生の際、手間取るのはこのあたりに大方の原因があるが、時間をかければ必ず人知で解決出来る。

その２、ソフトウェアは成長する生命体である。
銀行システムなどをみると、初めは単なるソロバン代わりであったものが、今や顧客情報など銀行業務に関わる一切の情報管理システムに成長・発展している。
そして今やこのソフトウェアシステム無しでは銀行業務自体がなり立ち行かぬのである。
何も此の事は銀行システムに限ったものではない。
ソフトウェアシステムは一旦開発を終え、使い始めると、次々に機能追加や修正作業が発生する。
これを続けていくとソフトウェアはいつの間にか増殖（成長）し、気がつくとソフトウェアが全てを支配してしまい、それ無しでは仕事が出来なくなってしまう。
こうしてみると、ソフトウェアの開発とそのメンテナンス（広義）は、ある意味で子育てに似ている。
子育てを他人まかせにして、うっちゃらかしておいては、ろくな者にはならないと私は思う。

その３，ソフトウェアシステムの構築（機能追加を含む）に当たっては、ハードウェアシステムと同じような「品質、コスト、納期」の管理体制が必須である。
ソフトウェアは目に見えない生産物だけに、その生産管理はハードウェアの場合以上に大事である。
開発に従事する個々人の日報を工夫して、日々コンピュータ処理出来るようにして置けば、かなりの確度の日次管理が出来る（内製体制の場合）。
しかし、手っ取り早いやり方は開発部隊の総責任者の適宜な現場巡回チェックである。
開発作業は全て人が行っているのであるから、職場に足を踏み入れただけで職場の雰囲気から状況が大凡感じとれる。
うまくいっていれば、その職場は明るく活気がある。何かトラブっておれば、その反対である。
そんな時は担当者に事情を聞けば大体の内容とそれに対する手当のアドバイスが出来る。
出荷に遅れが出るような問題であれば、逸早く相手方に連絡し対策を講じて置けば最悪の事態は回避出来る。
「犬も歩けば棒に当たる」の道理である。

以上は内製体制の場合であるが、建設作業のような多段下請け体制を採ったソフトウェア開発体制の場合はどうであろうか。
建設作業の場合は、出来形が目に見えるのでそれなりの人が現場チェックを行えば、進捗状況や出来上がり状況が比較的容易に判断出来る。
所がソフトウェアの場合は目に見えぬだけに、発注者からかなり離れた業者に属する開発者の作業状況をどの様にしたら上手く把握できるか、私にはよく分からない。
以上、下らない事を書き連ねて来たたが、思い起こすのは、嘗て日経 BP の谷島さんがお書きになった「ソフトを他人に作らせる日本、自分で作る米国 」とした論考である。
如何にもソフトウェア先進国アメリカの理合を言い表したモノと改めて敬服する。

「技術開発とその実用化」

IOWN について色々と想いを巡らしている中に、ふと真藤さんの語録を思い出した。
開発というのは、いままで全然経験のないようなものの開発ではなくて、いまあるものをさらに性能をよくする、使いやすくする、程度を上げるという意味の開発が焦眉の急である。これが第一義的な開発の方向である。
もう一つは、自分の持っている技術をベースにして、それから枝を出して新しい機種に手を出していく、この二つを並行していかなければならない。新しい機種を出していくことに対しては、マーケティングということが主になって、どんなものをやるべきだという判断が出てくる。
いまあるものに何かプラスアルファをつけていくという一義的開発の場合でも、やはり、その機種にプラスアルファをつけたら、さらに伸びるかどうかというマーケティングの判断が主になる。開発というのはマーケティング即開発であり、開発即マーケティングであるといえる。
また結局、開発というものはスタンドプレーでハデにみえるところからは、本当の意味の将来機種はなかなか出てくるものではない。いつとはなしに時間をかけて、じわりじわりと変わっているように、だれが手柄をたてたかわからないようにして、伸びていくのが本然の姿であって、決してハデなものではない。
分割前の初期の N 社の本社機構の中には、こうした技術開発を地道に実現するための、現場と直結した「技術局」や「通信ソフトウェア開発本部」があったのであるが。

「マイペンライ」

タイに二年間住み着いて仕事をしましたが、その中で「マイペンライ」という言葉に強い共感を覚えたものです。
英語で言いますと「Do not mind」に当たるのかもしれませんが、他力本願の意味では無く、大丈夫。今やれる事だけをしっかりやろうという意味で使って居り、タイ人は決していい加減な意味で使っている訳ではないようです。
さて、畏友中島 汎仁さんの投稿「80 歳の壁」を拝見し、同著をさっそく購入し読んでみました。
「長生き、マイペンライ」です。おすすめいたします。

海外グラフィティ

チェーホフの「桜の園」を観て

日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智

チェーホフは、四大戯曲として「かもめ」「三人姉妹」『ワーニャ伯父さん』と最後「桜の園」を残している。遺作ともいうべき「桜の園」の舞台を観たが、ロシア革命前夜の世相の移り変わりを劇中からも十分うかがわれた。

ロシア文学者の安達紀子さんが、「劇場文化」の中でチェーホフと「桜の園」に触れ簡潔にかつ見事に劇の背景を描いている。

最近手にした「ウィリアム・アトキンス」の「帝国の追放者たち」のなかで、１８９０年にチェーホフが、モスクワの自宅からサハリンまで６５００キロの旅をし、西岸の流刑地アレクサンドロスク・サハリンスキーに３か月間滞在し、のち「サハリン島」を著した。自身、東岸のユジノサハリンスクに出張した記憶がある。ロシアは広いのだ。そして、これほど時代の荒波にもまれた国もない。ロシアのウクライナ侵攻をみても、いまだに流動している。

まず、チェーホフの生い立ちから説明する。１８６０年に生まれた。父方の祖父は農奴であったが、後に３５００ルーブルの身代金を支払い、自由の身となった。父は雑貨商であった。中学時代からすでに戯曲を書いていたようだ。卒業後、モスクワ大学医学部に入学する。

このころから、短編小説を量産し始める。したがって、チェーホフとは？と問われれば、短編小説の名手であり、医者なのだ。結核にかかり、最晩年、まさに死に物狂いに遺作である「桜の園」を書いたのだった。帝政ロシアは、専制政治と農奴制の土台の上に築かれた帝国だったが、不十分ながらも、１８６１年の農奴解放令がアレクサンドル２世によって出され、次第に時代は変わってゆく。このころ、ロシアの人口は６０００万人、うち、自由民は１２００万人で、農奴は実に２２５０万人を数える。貴族は９万人しかいなかった。

「桜の園」は１９０３年にチェーホフによって完成され、１９０４年１月１７日モスクワ芸術座で初演されるも、その半年後の７月２日ドイツで客死した。そして、翌１９０５年には、第一次ロシア革命が勃発する。

「桜の園」は、主に地主貴族のラネーフスカヤ（女性）とロパーヒン（農奴の息子・実業家）を中心に展開する。農奴解放令の発布後、貴族は財産を少しずつ失い、その一方で、商人たちは次第に頭角を現してゆく。パリにあこがれる、金銭感覚のない女主人は、自分の領地である「桜の園」を売りに出す羽目となり、結局のところ、ロパーヒンに買い取られるという皮肉な結末となり、人々の境遇の逆転が起きる。農奴の息子に貴族が負けるという、果たして喜劇なのか悲劇なのかわからないが、このモチーフは、チェーホフの体験「・・自分の領地での零落した地主の生活ぶりをメモに書き留めていた」ことによるらしい。（2023.9.12 了）

（引用など）「劇場文化」安達紀子「桜の園」世界史の窓「農奴解放令」

海外便り

やどかり族の中国俳柳紀行序章(5)

（1996 年 8 月 3 日～同 25 日）

元 JICA シニアボランティア
北垣　勝之

8 月 13 日(火)

午前 4 時過ぎに起きて御来光を拝みに行く。これを見なければ峨眉山頂上に泊った意味がない。セーターの上にウィンドブレーカーをまとい完全武装、まだ真っ暗な中を出かける。カメラ・ポジションをどこにするかは昨日の下調べで決めている。五時近く東の空が白んできたかと見る間に、遠く雲海の彼方が赤みを帯びてきた。白い雲が紅に染まり、その先が一瞬真紅に輝くや否や黄金色の太陽が顔を出してきた。広場にはいつの間にか大勢の人が集まり、彼等から歓声が沸き上がる。辺りの草木はまだ影絵の世界だ。このコントラストが感無量である。

雲海の彼方に見入る御来光(峨眉山)

三千米仏教聖地の金頂かな(峨眉山)

今いる場所は標高 3000m、真夏とはいえ日出の頃は冷気を感じる。大勢人が集まるところ即ち商魂あり。峨眉山名物の猿を引き連れて観光客に写真を撮らせて商売をする人がいる。この猿が面白い。普通の猿には違いないのだが、ここは中国、孫悟空の末裔に当たる彼等は頭部を中心に金色スプレーで化粧し、金箔猿に仕立て上げられている。それが猿回しの号令で滑稽なポーズをとり、観客に愛嬌を振りまく。中には金粉が剥げて斑となった安物芸者のエテ公もいる。我々はさっそく彼等に「茶髪猿」のニックネームを付けて密かに楽しんだ。ところで後日談となるが、このエテ公と観客をシルエットにした御来光を撮影し、香港日本人倶楽部の写真コンテストに応募したが当然ながら落選。香港における我が写真の師と仰ぐ宮島武二氏からは「フラッシュを効かせ、猿に焦点を当てた写真にすべき」とのアドバイスを頂いた。道中携えてきた三脚を使用したのが、今回の長途でこの峨眉山頂上だけとは、まだまだ修行が足りぬと悟る。ともあれ三脚には出番のないとんだ中国旅行をさせてしまったものである。

いよいよ下山、上りの時の乗り物をそのまま逆に辿ることにした。ロープウェイを降りた先から徒歩で山道を下れば、途中野生の猿にも巡り遭えて面白いとガイドブックにはいとも安易に書いてある。これに乗ったら大変なことになっていた。後で分かったことだが、父親と叔父(ともに 50 歳代)を連れて沖縄から来た青年の三人組は、ここを歩いて下りたため難航苦行の連続で一日がかりの仕事になった由。おまけに年配の二人は足を痛めたと見え、杖を頼りの旅になっていた。一方、体調不十分な我々は客引きに勤しむミニバスに我慢しつつも一気に山を下る。

遠ざかる峨眉山、仙人が住むかもという夢は見事に消え去った。ミニバスとロープウェイで 3000m の頂上までいとも簡単に行ける。この 10 年前に完成したロープウェイの支柱なき最後の 500m を上るときの大パノラマは筆舌に尽くし難い。されど天下の名峰

も今や俗物うごめく単なる聖山と化す。

麓の街、峨眉市のバスセンターまで来て、別のミニバスに乗り換え楽山へ向かう。このミニバスも例の客呼び込みバスである。しばらくすると満席になり発車した。我々の運賃は一人 5 元だというので、いわれた通り二人で 10 元払った。すると、すぐ脇にいた一人の中国青年が「高すぎる。4 元/人ではないか」と言う。私は車掌に文句を言って、押し問答の末、渋る車掌から 2 元返して貰った。車掌は「お前が余計なことを言うから損したじゃないか」と青年を罵る。彼は珍しく英語を話した。私が車掌に向かって「だから中国人は信用できない」等、聞こえよがしに英語で喚いたのを耳にして、中国人としての誇りを傷つけられたのであろう。私たちの中国に対する印象を少しでもリカバリーしようと、今日の我々の予定を聞いては親切にアドバイスしてくれた。

雑踏の分かりにくいバスセンターからホテルまで、この青年の案内を頼りにタクシーで行った。彼にはチェックインの間中待ってもらい、せめて昼飯でも一緒にとりながら楽山の話を聞きたいと思った。彼は時間もないので昼飯は固辞したが近くの茶屋には付き合ってくれた。名は羅航と言い 23 歳の青年である。四川工業学院の電力学科から四川大学の本科に進み、卒業後今の電力会社で仕事をすることになったと言う。その日は峨眉の銀行に用事があって行き、帰りのミニバスで我々と出会った由。これから近くに住む家族とともに昼食をするからと、お茶だけ飲んで別れることにした。英語はまだダメと言いながらも、その律儀な態度と謙虚な話し方の中に、明日の中国を担う青年の姿を見つけることができ救われる思いがした。

羅航青年に言われた通りホテルの前からタクシーに乗り、楽山のシンボルである大仏見物に出かける。大仏がある凌雲寺入口で入場料一人 20 元を払って中へ入ろうとしたら、門番が「どこから来たのか」と尋ねるので「香港」と答える。すると彼は「それじゃ一人 40 元出せ」と言う。これらの会話は全て普通語でやり取りしたが、風体から何となく外国人だと見抜かれたようだ。「看板に外国人料金など書かれていないじゃないか」と食い下がり、「カネを取りたきゃちゃんと料金表に書いとけ」と罵声を浴びせる。中国入りして既に十日経ち、こっちも理不尽な外国人料金にはいい加減頭に来ていたので、ここを先途と大和魂でぶちかます。「それならもう入らない。さっき払ったカネは全部返せ」と啖呵を切る。こちらの毒気に相手はもうたじたじ、「それじゃ追加料金は不要、そのまま入場してもよい」というところまで来た。しかし私も日本男児、今さらおめおめ入場できるかと、払った全額を返して貰うやいなや今来た道をせっせと歩き始める。炎天下かなりの道のりではあったが、家内とともに意地を通した爽快感を噛みしめつつ、タクシー等の客引きの声には耳を貸さず自分の足で街中へ戻った。「楽山に入って、大仏を見ず」の一幕、彼等に外国人対応を誤らぬよう覚醒の一撃を下したかったからである。

翌日成都に戻るときの足は是非ともデラックスバスにしようと、その予約のために楽山入りした折のバスセンターまで行くことにした。このアイディアも羅航青年の薦めで切符の買い方まで詳しく教えて貰っていた。大した距離ではないと歩き出したのはいいが、なかなかそれらしい場所に辿り着かない。小一時間歩いたところで人に聞くと、どこで勘違いしたのか全く逆方向に歩いていた。戻るのも面倒くさい。それならいっそ近くのバス券発売所でも何とかなるだろうと尋ねて行くも取り扱っていないことがわかる。やむなくもと来た道を行き返し歩き始める。当初は、凌雲寺の切符売りを怒鳴りつけた勢いと、新しい町に対する興味もあってフットワークは軽快、だがもうすぐもうすぐと思いきや、なかなか目的地に達しないとなると疲れが一気に湧いてくる。そろそろ乗り物に乗ろうかという誘惑に負けそうになったその時、何という不思議な偶然であろうか、かの羅航青年にバッタリ出会ったのである。車の往来が激しい大通りを再び彼の案内で 500m も行くと見覚えのあるバスセンターがあった。窓口で午前出発は一本しかない明朝八時半の便の予約を行う。定員 47 人の最後の 2 座席にかろうじてありついた。安堵の缶ジュースを飲みながらしばし羅航青年と再会を喜び合った。だが「凌雲寺の大仏はもう

見に行かれましたか」と問うこの親切な中国青年に、まさか喧嘩して入ってこなかったとは言えず、「大変よかったです」と嘘をつく羽目になってしまった。

羅航青年と別れて、我々は人力三輪車に乗りホテルに戻ることにした。タクシーだと20元のところ車夫と交渉の末4元で行くことになった。自動車が激しく動く車道をのろのろと走る。また時には人混みに警笛を鳴らしながら堂々と行く。おまけに車夫は途中から河岸通りに出て楽山名所の案内を始める。我々が泊まるホテルは料金が高いので、もっと安くて便利なホテルに連れて行ってやろうと言う。話ついでかと思っていたら本当にそのホテルに横付けし、前のホテルから荷物を引き払ってこちらに移れと言い出す。もう前金も払ってそれはできないと言うと、それなら次に来たとき泊まることにして、今日はどうせ只だから見るだけでも見て行けと強引にロビーの中に案内される。ここのインテリアは素晴らしいだろう、壁の装飾もよいだろうと褒めちぎる始末である。この饒舌にして過剰親切な車夫のおかげで、時間の経つのも忘れ楽しい楽山見物ができた。

楽山では当地に来てから宿泊ホテルを決めた。一番高いホテルを目当てに来たのだが結果は正解であった。嘉州賓館というが、その中でも料金の高い部屋(ツイン一泊480元)を頼んだ。楽山は岷江・青衣江・大渡河という三つの河の合流地点にある。我々の部屋は大渡河に面した8階にあり、これらの河を見渡す広々とした立派な部屋であった。ここで長々と記してきた楽山物語のおちに入るが、実はこの部屋から凡そ1kmばかり離れて凌雲寺の大仏が丸見えだったのである。300㎜望遠レンズを通してしっかり眺め、写真も撮った。大渡河の瀬音を聴きながら、長い一日の疲れも忘れいつしか心地よい眠りについていた。(次号に続く)

楽山に入らず拝観大仏像(大渡河)

志の誉れ蜀の丞相諸葛亮(成都)

＜事務局注＞本稿はやや古いが、かえって新鮮であり、切にご寄稿をお願いしたものです。

国際交流基金の動き

日本語パートナーズ派遣事業の募集

事務局

国際交流基金(JF)は、2023年度の日本語パートナーズ派遣事業の募集をしています。日本語パートナーズは、アジアの中学・高校などの日本語教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや、日本文化の紹介を行うものです。専門的な知識は必要なく、応募要件に当てはまればどなたでも応募できます。アジアで多くを発見・吸収し、それを周囲へ、未来へ広げる…そんな人になってみませんか？募集一覧等は下記サイトのとおりであり、奮ってご応募いただければ幸いです。

https://asiawa.jpf.go.jp/partners/apply/

メッセージリレー(3)

平素より ICT 海外ボランティア会(ICTOV)に多大なるご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。当会ではこのたび、当会会報配信先の皆様から、「私の海外とのかかわりなど」につきまして、当会会報にリレー形式(五十音順)でメッセージをお寄せいただくことを企画いたしました。順番に別途ご依頼いたしますので、ご多忙のこととは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

お寄せいただきたいメッセージの内容は次のとおりです(全部又は一部選択可、文字数自由、図・写真添付可)。

①今までの海外活動のご経験など
②最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)
③最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど
④ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など
⑤その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)
⑥お名前(必須)

なお、過去の事例は当会ホームページに掲載しております。
https://ictov.jimdo.com/home/message-relay/

壹岐　政人

①今までの海外活動のご経験など
1983～1986　青年海外協力隊でガーナへ、ガーナ P&T 勤務
1990　NTTI へ、光ケーブルコネクタを海外へ輸出（技術移転）
海外から離れて国内で
・無線通信　ドコモ系　電験 3 種
・風力発電　強電の世界も体験　危険物乙種 4 類
技術士
・技術士として国交省系 電気工事士（1 種）
　まだまだ資格を
　電験 2 種
　電気通信施工管理技術士
　その他、、、、
②最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)
2023.3～7 月　日本全国を自転車で縦断
再度海外でのチャレンジ
2023.8 月～　grobalstar に就職、美幌にて衛星地球局建設に従事中
③最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど
　日本全国を自転車で縦断し、知人友人に会い、昔の思いを再考し、チャレンジ精神がわく
④ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など
　海外ボランティア活動は過去のことですが、現在対応してる方々からエネルギーをもらってます。ありがたいです。
⑤その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)
　経験や知恵を駆使して、今後も頑張りましょう。

宇津　真治

①今までの海外活動のご経験など

海外勤務はありません。海外出張は1回あります。妻と海外旅行に2回行きました。

②最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)

NTT コムウェアを定年退職し、地域コミュニティの活性化に取り組んでいます。長い間、NTT グループのような大企業にいると世の中の現実がわからなくなります。

地域独自の①課題（高齢者、障碍者、子育て、防災、グローバル化、孤立化）と②取り組み（町会・自治会、民生委員・児童委員活動など）に向け、まず防災とボランティアに注力し、活動範囲を広げてゆく所存です。

③最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど

ボランティア活動により、老人ホームの介護の過酷さを体験しました。

④ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など

今までの活動で満足しています。発表内容は知見や教養を得るのに十分です。

⑤その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)

特にありません。

遠藤　和彦

①今までの海外活動の経験

20 歳で入社し、25 歳で青年海外協力隊ネパール 2 年、35 歳でフィリピン NTP プロジェクト 2 年、45 歳でハノイ BCC プロジェクト 2 年、と来てさらに 55 歳で？と期待しましたが成らず、56 歳で NTT を退職し 64 歳で協力会社も退職しました。

②最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)

協力会社退職後職業訓練校で造園技能を学び、65 歳からシルバー人材センターの植木屋として 6 年目になりました。

趣味は 50 年以上もコイ釣りにハマり、My Fishing Style を確立すべく修行僧の千日回峰行を真似て年間 100 日釣行により達成しようと奮闘していますが、自由に釣行出来るのも体力的にあと 15 年、未完に終わるかもしれません。

③最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど

庭の剪定を終えてお客様から「あ～きれいになった」のひと言をいただくと思わずうれしくなります。釣りでは年間数本ですがメーターオーバーの淡水大魚がかかった時は体中のアドレナリンが全開、1 週間ほど余韻に浸っています。

④ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など

かつて海外業務を一緒にさせていただいた方々の近況を ICT 会がこうした場を設けていただくことにより気軽に知ることができ感謝しております。

⑤その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)

残された年数を数える方が早くなった今、人生をより楽しくそして少しは世の中のためになるよう生きたいと願っています。

“遠藤和彦”という名の国際経験者は東北にもう一人同性同名でいらっしゃいます。私は背の高い方の遠藤和彦、線路出身です。もう一人の遠ちゃんはやや小柄、伝送出身ですよ。

ウェブサロンの話、あれこれ

第 20 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

事務局

第 20 回 ICT 海外情報ウェブサロンが 2023 年 9 月 16 日(土)19 時～21 時、ウェブ会議室において開催された。講師は川内和子様(Toastmasters International リーダー、エグゼクティブ・コーチ、元日本ノーザン・テレコム広報代表)、演題は国際教育団体「NPO 組織が 100 年続く訳」であった。若手だけでなく、シニアにとっても社会・友人とのつながりや英語力・頭脳を維持できるものとして魅力的な話であり、活発な会話で時間を忘れて楽しいウェブサロンとなった。講師を引き受けていただいた川内様には深く感謝の意を表します。

主な話題を以下に示す。

・Toastmasters International は 1924 年 10 月に南カリフォルニアで創設され、来年は 100 周年に当たる。世界の NPO 法人の平均寿命は約 10 年、会社は約 30 年と言われており、Toastmasters は非常に長く続いている組織である。 https://district76.org/ja/

・ミッションは「全ての会員が、優れた有能なコミュニケーターとリーダーになれるよう支援すること」、またコアバリューは「誠実、尊敬、奉仕、卓越性」である。

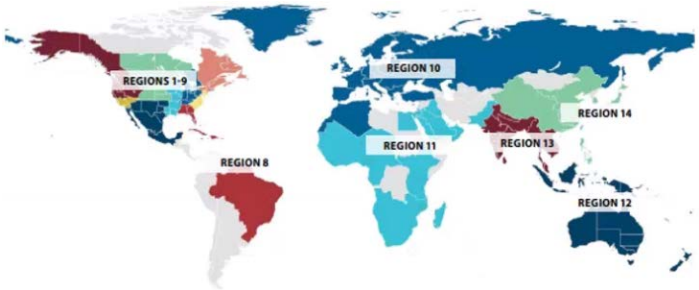
・世界 148 カ国で展開し、2023 年 8 月現在でクラブ数 14,271、会員数 266,554 名となっている。当初は男性のみ入会できたが、約 50 年後に女性も加入できるようになり、現在では女性が 55.1%を占めている。英語だけでなく、各国語によるクラブも存在する。日本には全国各地に約 200 のクラブがあるので、近くのクラブや気に入ったクラブ等に参加し、皆様のご経験などを後輩に教えてほしい。
https://district76.org/ja/list_of_all_clubs/

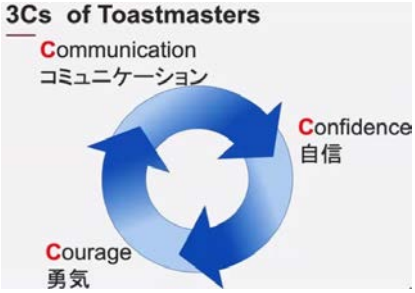
・先生がいない教育機関のようなものであり、論評(評価)、メンタリング、サーバント・リーダーシップに特徴がある。

・メンタリングは成長への極意であり、乙川弘文師と Steve Jobs 氏のメンタリングのほか、多数の国際会長がメンタリングの素晴らしさを語っている。

・サーバント・リーダーシップは、①今日よりも明日をより良くするために相互に助け合う、②誰も取り残さない、③すべての会員が、トーストマスターズのイベントや活動で歓迎されながら参加していると感じられるようにするビジネスモデルである。

・クラブ－エリア－ディビジョン－ディストリクト－リージョン(14 箇所)－本部という組織になっており、日本はリージョン 14 に含まれる。





・クラブ活動は司会者、文法係、あー・うー係、計時係などを役割分担し、即興スピーチ、準備スピーチ、個人論評、総合論評、今日の言葉のプログラムで構成している。コミュニケーションを図り、自信をつけて、勇気を持つという 3Cs のサイクルを回す。

・あー・うー係は、発表時に発する無駄な「あー・うー」などをカウントする係である。即興スピーチは司会者がお題を出して、前触れなく指された方が 1 分以上 2 分以内で発

表する演習で、実社会でも突然、挨拶やスピーチを求められることがあるのでいい練習になる。
・企業内のクラブも多数ある。NTT は 2012 年から 2015 年、新入社員研修の一環として 15 クラブが活動していたが、現在は役割を終えてすべて廃止している。
・IT 関係では、IT Toastmasters Club というクラブもある。
https://7539361.toastmastersclubs.org/
・パスウェイズというオンライン教材があり、自分のペースで基本学習ができる。
・日本全国大会や国際大会でのスピーチコンテストなどが毎年開催されている。

・100 年続く訳として、①活動を通して誰でもが持つ「人前で話す恐怖」を和らげる、②他への尊重の気持ちが強くなる、③活動を続けることで自分を望む方向に導ける、④ビジネスモデルがシンプルで人間関係改善に役立つ、⑤安価な会費(半年 60 ドル)で長く続けられる、⑦世界中の会員と友好を深める機会に恵まれている、⑧活動が楽しく笑うことでストレスが軽減する、⑨英語を使う機会が多く多文化を学べる、などがある。

多くの参加者から多数の質問・意見・要望があった。以下、それらについて、講師の一部回答を含め、簡単に列記する。
・Toastmasters はあまり知られていない。新興宗教かと思っていたが、魅力的な活動であることを理解した。
・近くにクラブがあるようなので、英語力維持のためにも、すぐに入会したい。
・年齢や学歴等は不問であり、93 歳の方も参加している。
・会合は毎月 1 回や毎週 1 回などクラブごとに異なり、時間は 2 時間くらいが多い。
・日本では 1954 年設立で 69 年間続いているクラブがある。
・途中で辞めるメンバーもいるが、それは普通のことと捉えている。一度辞めても登録は本部データベースに残っており、再入会には入会費 20 ドルは不要である。
・米軍基地のクラブでは、生の英語に接することができる。
・英語を聞く機会は多数あるが、話す機会はあまりないので、この活動は有益だ。
・ディベートのクラブもあるようなので、特に若手にはディベートに慣れてほしい。
・米国の大学などでスピーチやプレゼンの授業があり、非常に効果的だった。
・Excellent なリーダーシップができることが求められる。
・同じスタイル・文化・品質が 100 年間続くのは素晴らしい。
・宗教や政治に関するスピーチはあるか。国民性が現れる国はあるか。
・自由主義陣営だけでなく、ベトナム、ロシアなどでも活動している。
・チャット GPT により、今後は指示待ち人間ではなく、指示を出す力が求められる。
・パンデミックの影響はあったか。

終了予定は 20 時 30 分であったが、21 時 30 分過ぎまで絶え間ない意見交換があり、真にウェブサロンの雰囲気であった。

編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 110 号を発行することができました。今回は当会の竹中顧問(NTT 西日本 技術革新部 技術戦略部門　国際室長)から「NTT 西日本　国際室の活動」の特別寄稿をいただくとともに、岩槻日記、海外グラフィティ、俳柳紀行のご寄稿継続をいただき、誠にありがとうございます。

また、会報第 108 号から当会会報配信先の皆様によるメッセージリレーを開始いたしましたが、今回も 3 名の方からメッセージをいただき、誠にありがとうございます。今後も、「私の海外とのかかわりなど」につきまして別途、五十音順にメッセージのご依頼をいたしますので、ご多忙のこととは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

これまでのご協力に改めて心より感謝するとともに、当会及び当会報へのご感想、ご意見などございましたら、下記サイトにご記入いただければ幸いです。皆様からのさらなる会報へのご寄稿と ICT 海外情報ウェブサロンへのご参加をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

https://ictov.jimdo.com/コメント/

発行：　ICT 海外ボランティア会(ICTOV)
会報担当：　空席のため募集中（編集長兼広報部長)、山川　博久(事務局長)
ホームページ担当：　山崎　義行(報道部長)、安達　信男(幹事)